

2015年度 大学史資料センター 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか					
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	本センターは2003年4月に、本学の歴史及び卒業生等に関する調査・研究・資料保存・資料利用等を目的として設置された。『明治大学百年史』（全4巻、1986—1994年）編纂によって蓄積された資料の活用と、さらなる調査・研究・アーカイヴズ化の推進を目指し、各種事業を展開している。 学部間共通総合講座・リバティアカデミー大学史講座・ホームカミングデー大学史講座・大学史関係書籍等の刊行を通して、学生に対して本学の歩みや理念についての理解を深め、同時に本学への愛着を培っていくこと、また、父母・校友・役員・教職員や一般社会人に対しても本学への関心・知識を広げていくことを目的とする。センターの各種事業を通して、本学の建学の精神である「権利自由」「独立自治」を体現し、社会に貢献できる人材の育成を目標とする。 ○ 理念・目的の明確化 センター運営委員会と各研究会において、センターの理念・目的等と、センターで実行する事業について乖離が生じていないかどうか討議している。				
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか					
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	定期的に開催されるセンター運営委員会において、センターの理念・目的等と、センターで実行する事業について乖離が生じていないかどうか討議している。	・センター運営委員合議により、国立大学アーカイヴズとは異なった、創業者・校史・卒業生に関する調査研究事業を軸に展開している。		・センター所長の下で、ふさわしい検証の方法について検討を深める。	

2014年度 大学史資料センター 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか					
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	○大学史資料センター、大学史展示室、明治大学阿久悠記念館 本法人並びに校史に係る資料の収集、調査及び公開をもって本学の発展に資することを目的として設置している。また、日本を代表する作詞家・作家で本学卒業生である故阿久悠氏の業績をたたえ、その遺産を次世代に継承していくために2011年度に設置された「明治大学阿久悠記念館」の管理運営を行っている。4キャンパスで展開する学部間共通総合講座「明治大学の歴史」において、本学の建学の精神等を学生に対して講義し、もって建学精神の構成員への浸透を図っている。				
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか					
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	センター所長から教育研究にかかる事業計画の提案を行い、センター運営委員会において機関承認をしている。またセンターに設置した研究部会である創立者研究会（山泉進代表）、人権派弁護士研究会（第Ⅱ期）（村上一博代表）、アジア留学生研究会（高田幸男代表）、財界人研究会（秋谷紀男代表）、昭和歌謡史研究会（吉田悦志代表）、特別資料研究会（山泉進代表）の各代表から、各研究部会において推進している調査研究の推進状況と計画について、センターで随時報告提案し承認を得ている。 学部間共通総合講座「明治大学の歴史」については、センター運営委員会でコーディネーターとカリキュラムについて検討及び決定を図っている。	・適切な調査研究計画に基づき、本学の校史及び多様化する校友の活動の解明を図り、本学の建学の精神をより明らかにするとともに、学生や教職員にその精神を広く伝えることに寄与している。		・2017年度の100分授業化に伴い、授業内容についてコーディネーターの下、検討を進める。	

2015年度 大学史資料センター 自己点検・評価報告書

基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画	「改善を要する点」に対する発展計画	
				G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか						
a ●方針に沿って、社会連携・社会貢献を推進しているか。	① 教育研究の成果をもとにした社会へのサービス活動 ・閲覧希望者に対して研究資源の公開として所蔵する大学史資料のレファレンスサービスを実施している。 ・社会に開かれた大学として、展示・閲覧に係る大学施設を開放し地域連携等に貢献している。 ・リバティアカデミーにおいては社会人向け大学史講座を開講している。2015年度は中野キャンパスにおいて「人ありて明治!!!」(全5回、5月9日-6月6日)を開講し、19名が参加した。また、10月18日の第18回ホームカミングデー公開講座として同名講座を開講し、約130名が参加した。 ・人権派弁護士研究会では国際シンポジウム「布施辰治! 甦れ。ーアジアの人権とコモンズ」を開催し、約50名が参加した(2015年6月27日)。 ・機関誌として『大学史紀要』を刊行し、編集委員会による適切な査読体制のもと、その成果の発信を行っている。 ② 学外組織との連携協力による教育研究の推進 ・創立者出身地域の歴史関係機関、校友会等関係者と随時人的交流を図り、連携して調査研究を実施している。 ・鳥取敬愛高校にて「とっとり県民の日」記念講演会を実施した(9月12日 山泉進「明治大学と3人の創立者」 野尻泰弘「鯖江と矢代操」 村上一博「鳥取出身の明治大学創立者 岸本辰雄」)。 ・『明治大学校友会史』の編纂協力を行っている(2014年度から)。 ・鳥取大学全学共通科目「鳥取学」への講師派遣を行っている(2010年度から)。 ③ 第2回全国大学史展の開催 ・全国大学史資料協議会東日本部会との共催で、企画展示「学生たちの戦前・戦中・戦後」を開催した(2015年7月3日-8月2日 於明治大学博物館特別展示室)。本展示では東日本に所在する約70大学の学生の歴史に関する資料を一堂に会した。期間中の来場者はおよそ2,800名に達した。	・社会連携事務室・校友課、関係自治体及び他大学類縁組織と連携しながら今後同様の事業を実施するにあたっての実績が蓄積されつつある。		・社会連携事務室と連携し、2016年10月23日開催の第19回ホームカミングデーにおいて、本学校友に関する公開講座を実施する。 ・2016年11月13日開催の明治大学全国校友鳥取大会において創立者岸本辰雄顕彰講演会を実施する。		

2015年度 大学史資料センター 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか						
a	◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	運営委員会、各研究会において日常的に自己点検・評価を実施している。毎年度の自己点検・評価は、運営委員が検証し、改善策の検討を行うとともに、自己点検・評価とその結果を公表している。				
(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか						
a	●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●PDCAサイクルを回すための、Check (点検・評価) および Action (改善) の具体的内容・工夫 <参考：以下の事項に関して、関連するものについて記述する> ①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映 など	・2016年度から、これまでいなかった商学部及び農学部所属の運営委員が増員され、委員の所属学部構成比の偏りが改善した。 ・各種学術交流や、全国大学史資料協議会などを通して、他大学類縁機関の研究推進状況やそのあり方について情報収集を進め、センターの事業計画に反映させている。		・今後、運営委員の構成について検討を深める。 ・他機関や他機関所属研究者との共同研究事業などの推進を図る。		

8章根拠資料

(講座受講生数)

年度	年間講座数	募集人員	参加者	平均受講者数
2006年	1	30	11	10
2007年	1	30	13	15
2008年	1	30	17	15
2009年	1	30	11	9
2010年	開講せず			
2011年	開講せず			
2012年	1	200	200 (概数)	
2013年	1	300	150 (概数)	
2014年	2	500	400 (概数)	
2015年	2	280	150 (概数)	

10章根拠資料

委員会等の名称	主なメンバー, 人数	開催日
大学史資料センター運営委員会	大学史資料センター所長, 同副所長, 同委員計13名 ※2016年4月より5名増員	2015年 4月22日
		同 5月27日
		同 7月22日
		同 9月30日
		同 11月25日
		2016年 1月27日
		同 3月23日
		同 4月27日
		同 5月25日